

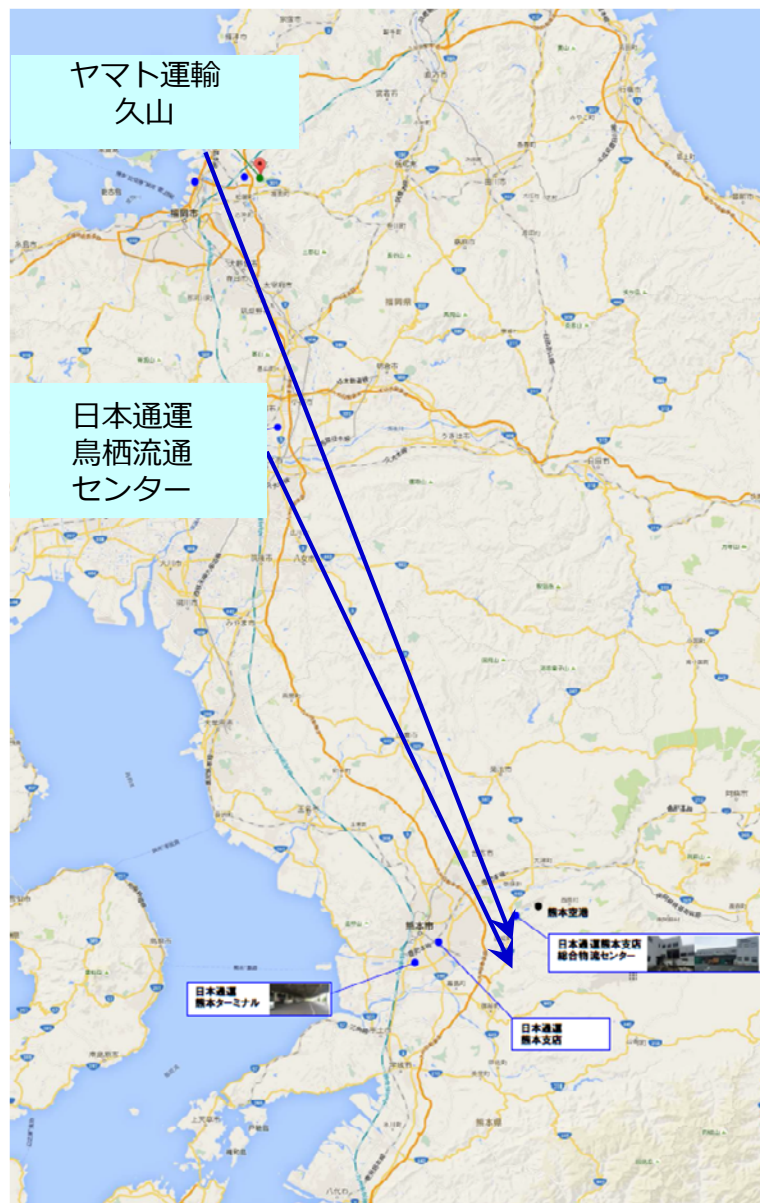
# 熊本地震における災害支援物資 (食品・飲料)輸送の取組について

---

2016年 11月 14日  
日本通運株式会社

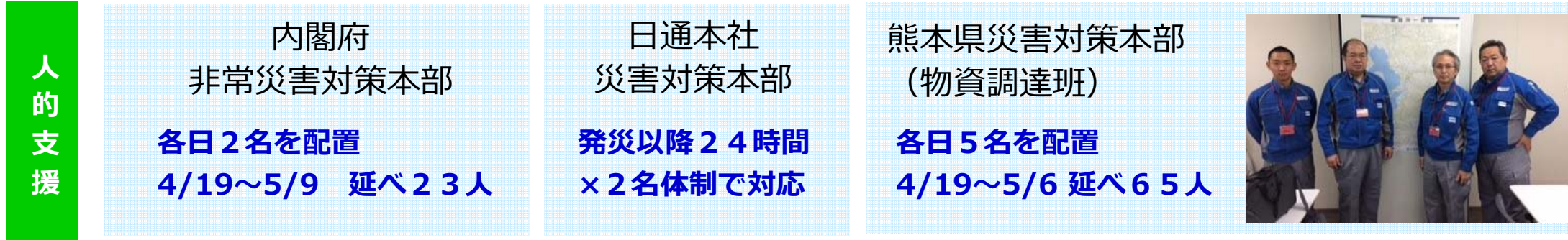
# 1. 熊本地震における災害支援物資輸送の取り組みについて

- ヤマト運輸殿と連携し、災害支援物資輸送の体制を構築
- 佐賀県鳥栖市の当社物流センター（1,000坪）を食品・飲料の物流拠点として提供



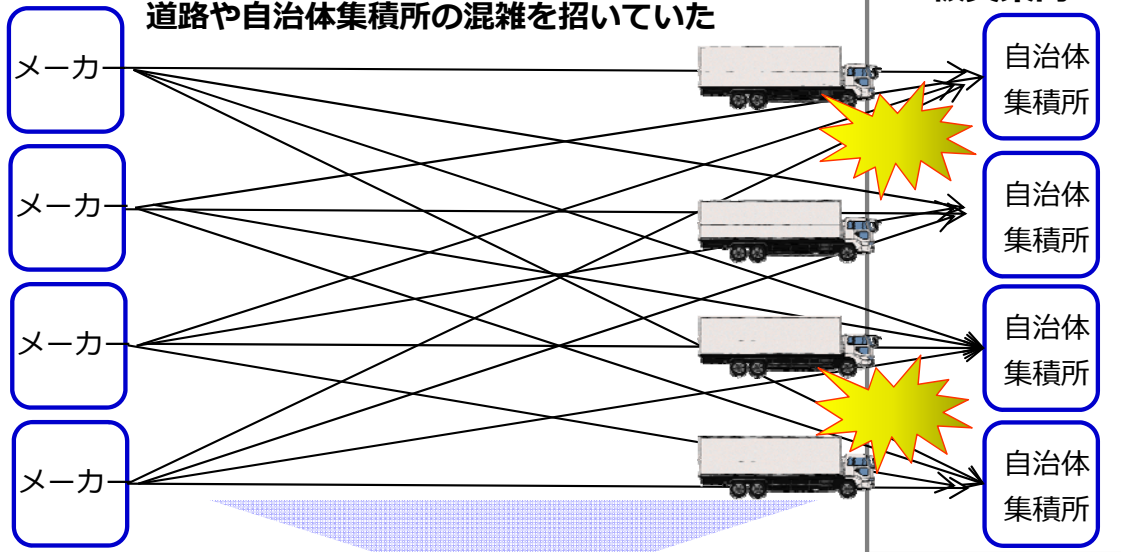
# 1. 熊本地震における災害支援物資輸送の取り組みについて

- 鳥栖流通センターと一次・二次輸送を組み合わせた災害支援物資輸送の体制を整備
- 熊本県災害対策本部へ東日本大震災の災害対応経験者を、内閣府にもリエゾンを派遣

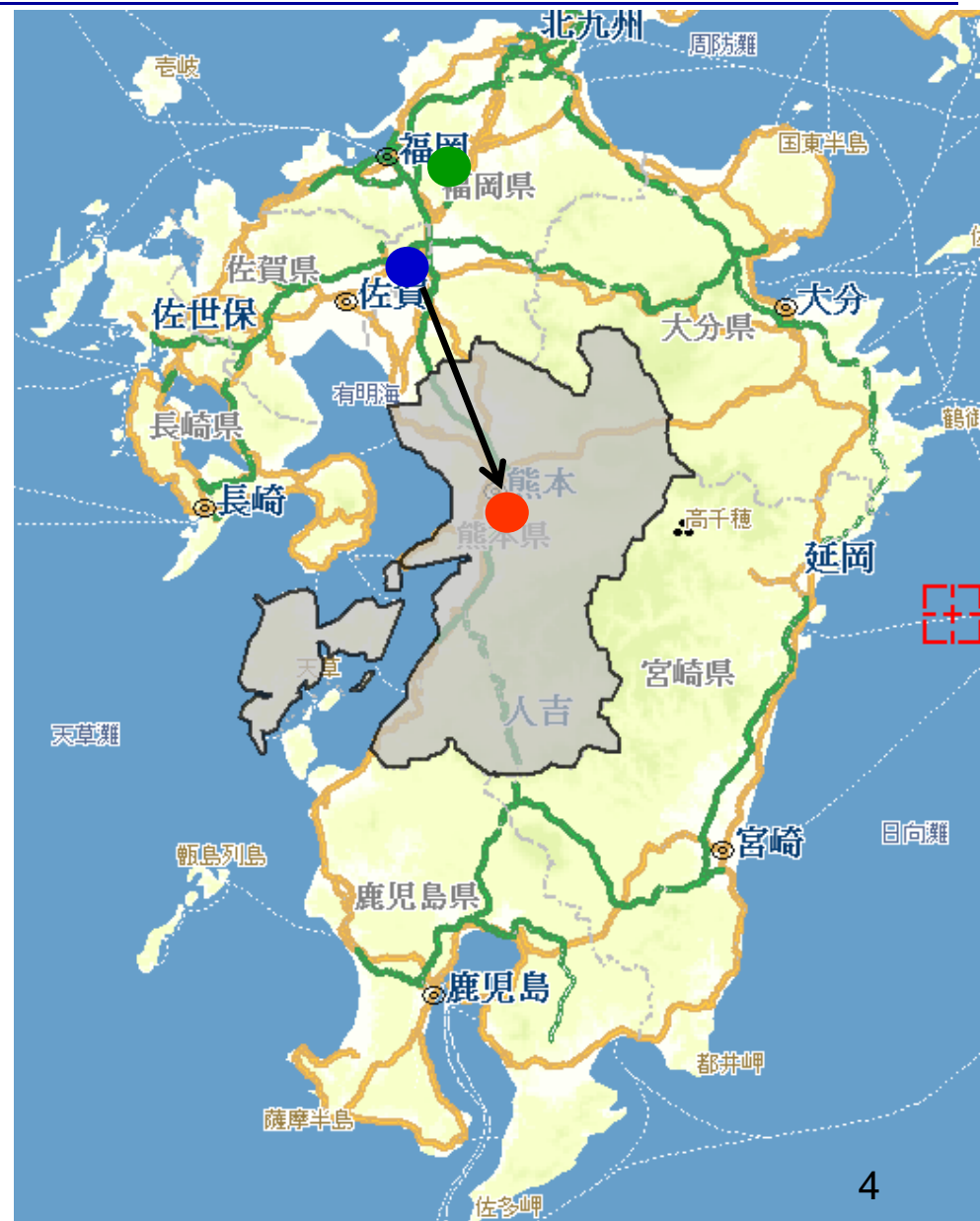
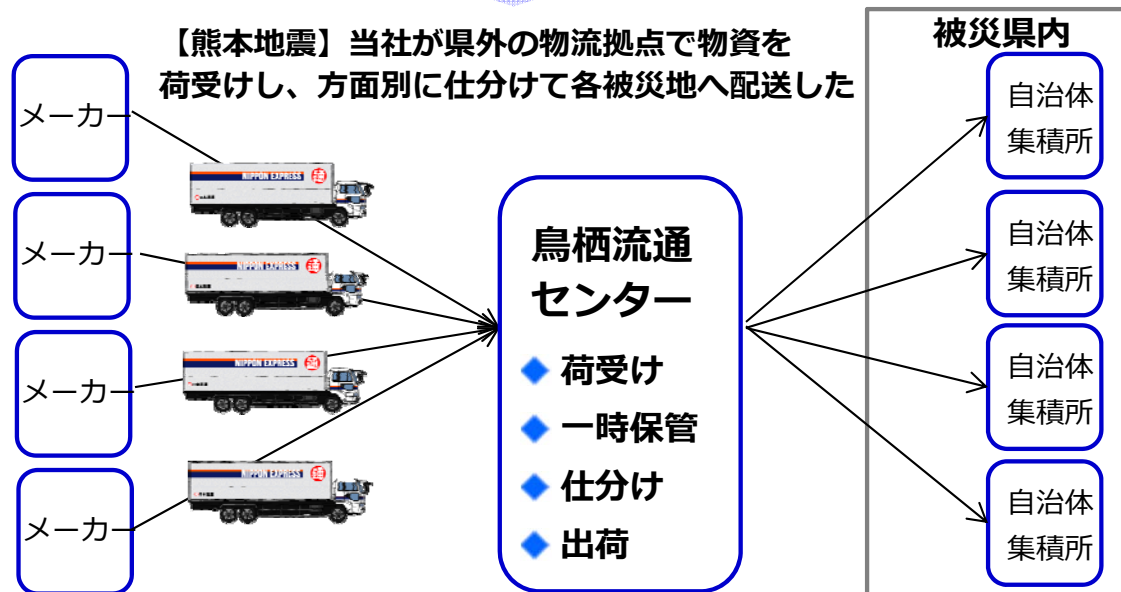


# ① 被災県外の物流施設を活用し、円滑な物資輸送体制を構築

【従来】全国から物資輸送のトラックが各被災地へ流入し  
道路や自治体集積所の混雑を招いていた



【熊本地震】当社が県外の物流拠点で物資を  
荷受けし、方面別に仕分けて各被災地へ配送した



## ② 関係機関と情報を共有し、さまざまな状況変化に対応

(C4) 内閣府  
非常災害対策本部



- 支援物資の調達に関する助言
- 関係機関との連絡・調整

日通本社  
災害対策本部



- 支援物資輸送の統括指揮
- 支援物資の輸送手配
- 関係省庁・機関との連絡・調整
- 各リエゾンとの連絡・情報整理

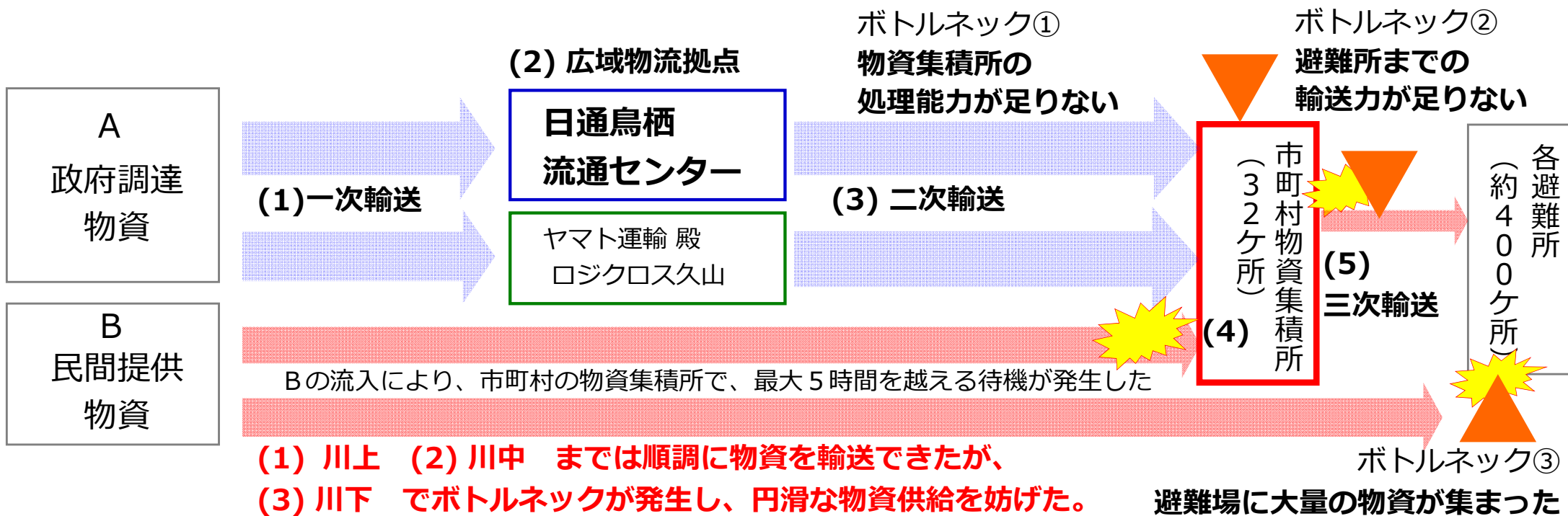
熊本県災害対策本部  
(物資調達班)



- 災害対策本部関係者との連絡・調整
- 物資調達班に対する各種助言
- 各輸送拠点との連絡・調整
- 物資輸送スキーム変更への対応
- 被災地における物資受給動向の把握
- 災害に関する最新情報の収集・展開

内閣府、日通本社、現地災害対策本部への人的派遣を行ったことにより、あらゆる状況変化に対し、速やかに対応できたことが支援物資の安定供給につながった。

# 支援物資サプライチェーンの川下で複数のボトルネックが発生した



発災直後は多くの集積所に物資が輻輳



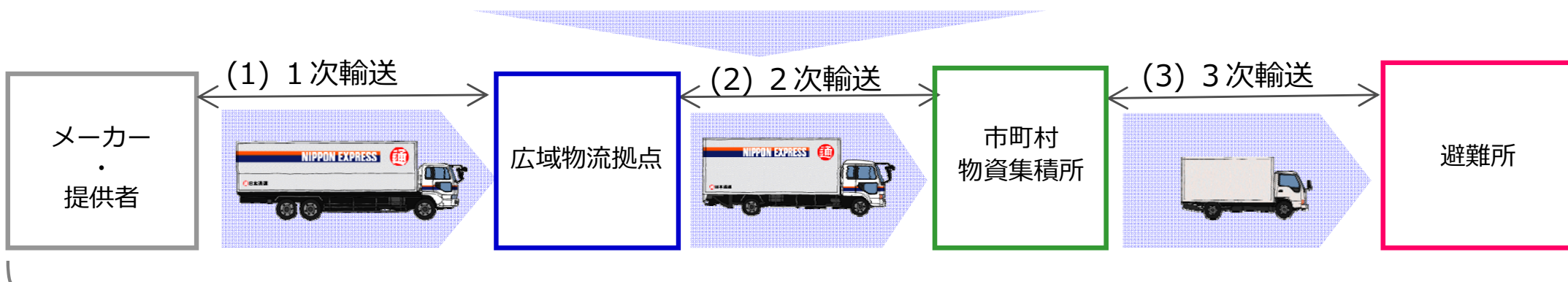
品目・規格が不均一な個人提供物資



避難所へ物資を運ぶ自衛隊のトラック

## 災害支援物資輸送における最大の課題は「部分最適」を無くすこと

- 特定部分のみ輸送力を増強すれば、どこかでボトルネックが発生する。
- ボトルネックを無視して、大量の物資を供給し続ければ、支援物資輸送全体の機能不全を招く。
- 「部分最適」の支援物資輸送では、物資を円滑に被災地へ届けることはできない。



物資の調達から、最終避難所への配送までの全体を俯瞰し、  
**「全体最適による災害支援ロジスティクス」**  
 を早期段階で構築する必要がある。

- ① 避難所までの輸送状況全体を把握し、ボトルネック（物資滞留箇所）を特定する。
- ② ボトルネックへの対策（人的支援など）を検討し、その解消に努める
- ③ ボトルネックの原因が「物資の過剰供給」であれば、物資の供給量を抑制する。 7

## 災害支援物資輸送において特に留意すべき点

- ① 支援物資の被災地直送の回避 ▶ 土地勘の無い大型車両が被災地へ大量に流入し、被災地で混乱や道路渋滞が発生
- ② 多方面からの個別指示の回避 ▶ 各省庁から物流事業者に対する多数の指示や質問があり、作業が混乱・停滞
- ③ バラ積みによる輸送の禁止 ▶ 支援物資の積み換え・仕分け作業で、大きな労力と時間のロスが発生
- ④ 集積所からの勝手な持出し禁止 ▶ 物資輸送トラックの長時間待機や、在庫差異が発生
- ⑤ SNSや報道の拡大解釈の回避 ▶ SNSや報道の「〇〇が足りない」という情報により過剰物資が被災地へ直送

**以上の点に留意し「部分最適」を排除する**

**必要な「モノ」を、必要な「時」に、  
必要な「場所」へ、必要な「量」だけ「澁みなく」届ける**

**「全体最適による災害支援ロジスティクス」を早期に構築する**